

令和4年度地方創生交付金関連実施事業検証シート

※地方創生関係交付金に係る事務事業の実績について記載しています。

(各事業の成果実績、活動実績は担当課が実施した事務事業評価による数値を抜粋)

NO.1

R 4 地方創生交付金 福知山市・丹波市・朝来市 3市圏域の競争力強化による「稼ぐ地域」創造事業					
事業名	福知山市産業支援事業（ドッコイセ！Biz）				
担当課	産業政策部 産業観光課				
予算額	32,460千円				
1 事業の背景・目的					
福知山産業支援センターを運営し、あらゆる産業分野において経営上の課題を抱える中小企業・小規模事業者・農業従事者等や起業を志す人の課題解決に向けた支援を行うことで地域経済の活性化を図る。					
2 事業の内容					
相談業務を中心とした支援を行う福知山産業支援センター「ドッコイセ！biz」においてあらゆる業種の事業所の相談に対応する。福知山産業支援センター「ドッコイセ！biz」の運営業務については、一般社団法人福知山産業支援機構へ業務委託をする。					
3 決算額及び 交付金充当額 (単位：円)	費目	金額	概要		
	委託料	3,542,000	産業支援センター運營業務委託料		
	決算額計	3,542,000	交付金充当額	1,771,000	
4 事業の成果	年間を通じて930件の相談に対応し、事業者の売上アップや販路開拓につながった事業者は127者であった。				
5 課題	相談者のうち95%がリピート利用者であり、新規相談者の獲得が課題となっている。				
6 R5年度以降の 予定	ホームページやSNS等での積極的な情報を発信、成功事例の展示、新規相談者対象のホームページ作成とデザインに関する相談会を開催し、センターの認知度を向上させることで新規相談者を獲得し、成果事例や事業者間のマッチング事例を増やしていく。				
成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	R2	R3	R4
	販路拡大や売上up等 につながった件数	件/月	157/30	126/100	127/100
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	R2	R3	R4
	相談件数	件/月	82/30	80/60	78/60
担当課による評価	B(相当程度効果があった)				
評価をつけた理由	相談者へのアンケートで、満足、やや満足と答えた割合が95%を超えており、相談者の課題解決に適切に対応できている。				

令和4年度地方創生交付金関連実施事業検証シート

※地方創生関係交付金に係る事務事業の実績について記載しています。

(各事業の成果実績、活動実績は担当課が実施した事務事業評価による数値を抜粋)

NO.2

R 4 地方創生交付金

福知山市・丹波市・朝来市 3市圏域の競争力強化による「稼ぐ地域」創造事業

事業名	起業おうえん事業				
担当課	産業政策部 産業観光課				
予算額	7,705千円				
1 事業の背景・目的					
<p>本事業は国から認定を受けた福知山市創業支援等事業計画に基づき実施している。</p> <p>市内の事業所数が減少傾向にある中、市内で新たに事業を営む者に対し助成・補助制度を実施することで、創業時の経費負担を軽減するとともに、創業時のノウハウ取得のためのセミナー等の開催により創業しやすい環境を整え、起業及び雇用の促進することで産業の活性化を図る。</p>					
2 事業の内容					
<p>1 創業セミナー 専門家による創業セミナーを年2回実施（入門編、実践編）</p> <p>2 福知山市起業おうえん助成金 創業関連融資利用者に対し、約6か月分の利子相当額を全額補助する（上限90千円）</p> <p>3 福知山市起業家支援事業補助金（補助率：ソフト事業1/2上限200千円、ハード事業1/4上限500千円）</p>					
3 決算額及び 交付金充当額 (単位：円)	費目	金額	概要		
	負担金及び交付金	4,227,333	NEXT産業創造プログラムに係る福知山市起業家支援事業補助金等		
	委託料等	564,624	業務委託料等		
	決算額計	4,791,957	交付金充当額	2,395,978	
4 事業の成果	<p>創業セミナー、利子補給、補助金等の様々な角度からの創業支援を実施できており、補助制度については、創業時の経費面での負担軽減に有効である。</p> <p>創業セミナー参加者アンケートにおいても満足度が高い。</p>				
5 課題	<p>コロナ禍の影響もあり、福知山市創業支援等事業ネットワーク会議の会議が年1回程度となっており、創業支援機関との繋がりを十分に活かされていない。</p>				
6 R5年度以降の 予定	<p>より効果的な地域創業支援を促進するため、福知山市創業支援等事業ネットワーク会議をはじめ創業支援や事業承継等に関する情報を共有する場を頻繁に設ける。</p>				
成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	R2	R3	R4
	市内での創業者数	人	21/32	23/32	65/32
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	R2	R3	R4
	セミナー参加者数	人	21/15	26/15	48/15
担当課による評価	B(相当程度効果があった)				
評価をつけた理由	<p>コロナ禍の中、国から認定を受けた福知山市創業支援等事業計画（H27～R5）の目標に掲げている年間32人を大幅に超える創業者数を達成したため。</p>				

令和4年度地方創生交付金関連実施事業検証シート

※地方創生関係交付金に係る事務事業の実績について記載しています。

(各事業の成果実績、活動実績は担当課が実施した事務事業評価による数値を抜粋)

NO.3

R 4 地方創生交付金
 福知山市・丹波市・朝来市 3市圏域の競争力強化による「稼ぐ地域」創造事業

事業名	食を通じた観光促進事業
担当課	産業政策部 産業観光課
予算額	9,031千円

1 事業の背景・目的

ANA等各種プラットフォームを活用し、「稼ぐ力のある福知山商品ブランドの創生」を行い、全国展開を目指すとともに、食に関する観光ブランドの展開やイベント等を開催し、交流人口の拡大を図る。

2 事業の内容

- ・福知山産品の磨き上げ、新商品開発等の講座
- ・羽田空港「ANA FESTA」での福知山産品の販売
- ・食のイベントの開催

3 決算額及び 交付金充当額 (単位：円)	費目	金額	概要	
	委託料	8,350,000	「食を通じた観光促進事業」実施業務等	
	決算額計	8,350,000	交付金充当額	4,175,000

4 事業の成果
 商品の磨き上げに参加した13事業者のうち、羽田空港に出店したのは9事業者で商品販売額は約80万円。また、2日間開催した食のイベントは来場者数約1万人、延べ出店数75店舗、店舗総売上額約820万円（推定）、モニターバスツアー40名であった。

5 課題
 福知山産品の認知度及び販売額の向上

6 R5年度以降の
 予定
 引き続き福知山産品の全国展開に向けた販路支援業務を行うほか、食のイベントを複数回開催することで、さらなる経済効果、本市の認知度向上、誘客につなげていく。

成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	R2	R3	R4
	プラットフォームを活用した商品数	個	0/0	0/0	13/15
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	R2	R3	R4
	食のイベント回数	回	0/0	0/0	1/3

担当課による評価 C(効果があった)

評価をつけた理由
 個別の事業者ではANAグループのリソースを活用することは困難であり、市の事業として実施することの必要性は高い。羽田空港での販売以外にも、ANAのふるさと納税サイト内への展開も行うことで、事業者の販路拡大にもつながったため。

令和4年度地方創生交付金関連実施事業検証シート

※地方創生関係交付金に係る事務事業の実績について記載しています。

(各事業の成果実績、活動実績は担当課が実施した事務事業評価による数値を抜粋)

NO.4

R 4 地方創生交付金

福知山市・丹波市・朝来市 3市圏域の競争力強化による「稼ぐ地域」創造事業

事業名	福知山市ブランディング事業（福知山PR戦略総合推進事業、竜王戦福知山城対局事業）
担当課	市長公室 秘書広報課
予算額	53,444千円

1 事業の背景・目的

福知山市は、住みよさランキングは京都府内では1位ですが、2020年大河ドラマで地元ゆかりの武将・明智光秀が主人公になるまでは、市を印象づける強い地域ブランドがありませんでした。市民が自分のまちを推奨する意欲も低いという背景がありました。

そんな中、本市の地域ブランドを高めて福知山ファンを増やし、関係人口（多様な形で関わる市外の方々）・交流人口の拡大とシビックプライドの醸成を図ることを目的に、3本柱のテーマ（①地元ゆかりの武将・明智光秀や福知山城 ②新たな地域ブランド育成 ③市役所・市全体のPR力強化）で、シティブロモーションに取り組みます。

2 事業の内容

◆明智光秀 ○光秀マインドプロジェクトVol.3 福知山の姿 ○福知山城マインクラフト ○京都府域アートフェスティバルin福知山城（実行委員会に参加）など ◆将棋タイトル戦「竜王戦」福知山城対局 ○対局（藤井聡太竜王対 広瀬章人八段）の共催 ○市民参加の関連企画（こども将棋大会、前夜祭、大盤解説会、メニュー公募など） ◆鬼（新たな地域ブランド育成） ○市出身千原ジュニアさんYouTube動画公開 ○動画「転生したら鬼退治を命じられました」TVCM放送 ○鬼鬼祭 など ◆市役所・市全体のPR力強化 ○プレスリリース添削・配信 ○オウンドメディア「note」開設・運営 ○Twitter・Instagram運営 ○移住プレスツアー ○職員PR研修 ○市内外での講演 など

3 決算額及び 交付金充当額 (単位：円)	費目	金額	概要	
	委託料	28,433,380	鬼文化PR事業業務委託、福知山市PR力強化業務委託、福知山城マインクラフト業務委託、研修業務委託など	
	負担金及び交付金	16,244,000	第35期竜王戦第4局福知山城対局実行委員会負担金、福知山イル未来と実行委員会負担金	
	需用費	2,241,759	いがいとポロシャツ制作、福知山の姿ポスター印刷、鬼鬼祭広報宣伝物印刷など	
	役務費	1,650,000	福知山の姿全面新聞広告出稿業務、いがいとポロシャツ販売手数料、電話代、運搬料など	
決算額計		48,569,139	交付金充当額	24,284,569

4 事業の成果
○記事掲載は合計で約2200件、広告換算額は約19億円を記録。特に竜王戦で福知山の食がTV等で紹介。○鬼の動画2種の総再生数が約96万回。日本の鬼の交流博物館の来館者数が、コロナ前5か年平均と比較して127%に。○令和2～4年度の活動で、12アワード受賞。全国広報コンクールで3年連続入選など。○シティブロモーションの講演・取材が、令和4年度は市内外で約15件。広報専門誌、学会・サミット、地元中・高校など。市役所自体のブランド化にもつながっている。○企業版やクラファン型ふるさと納税で財源獲得。

5 課題
○大河ドラマや鬼の社会現象が落ち着いていく中で、令和2年度までの「全国に発信してその評価を市内に還流させる」手法が年々難しくなっている。
○オウンドメディアの立ち上げ・発信強化にここ数年取り組んでいるが、より効率・効果的に運用していき、持続可能なPR力をつける。

6 R5年度以降の
予定
○三本柱（1.光秀 2.鬼など新たな地域ブランド 3.市全体PR力強化）は継続 ○「光秀マインドプロジェクト」など、市民をコアターゲットとして、市内からプロジェクトの協力者を増やし、その輪を同心円状に広げていくプロジェクトに、更にリソースを割いていく。○メディア記事掲載数の量のある程度保ちつつ、オウンドメディアを活用してコミュニケーションの質を上げていき、福知山市のファンづくりにつなげる。○市役所の他部署や市民に対して、当事業を通して培ったノウハウを共有したり、支援を行うことで、各事業や活動の効果を高めていく。

成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	R2	R3	R4
	いがいと！福知山ファンクラブ市外会員数	円		3149/1000	3208/3200
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	R2	R3	R4
	市民の地域推奨意欲指数(mGAP)	人	—	-37.7/-39	-30.5/-37
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	R2	R3	R4
	プレスリリース配信	件	42/10	61/40	82/55
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	R2	R3	R4
	メディア記事掲載件数(R3,4は転載含む)	件	400(転載なし)/200	1597/800	2237/1100

担当課による評価 A(非常に効果があった)

評価をつけた理由
明智光秀主人公の大河ドラマ放送に伴う令和2年度までの重点テーマ「明智光秀」を深化させる「まちづくりの挑戦心＝光秀マインド」をコンセプトにしたPR活動（光秀マインドプロジェクト）と、「鬼」「市役所・市全体のPR力向上」という新たなテーマとの三本柱により、業務指標に貢献している。令和4年度は、アウトカム・アウトプットとも目標を達成したほか、事業の成果にあげたような様々な数値にて現れている。

令和4年度地方創生交付金関連実施事業検証シート

※地方創生関係交付金に係る事務事業の実績について記載しています。

(各事業の成果実績、活動実績は担当課が実施した事務事業評価による数値を抜粋)

NO.5

R 4 地方創生交付金
福知山市・丹波市・朝来市 3市圏域の競争力強化による「稼ぐ地域」創造事業

事業名	稼げる農業おうえん事業
担当課	産業政策部 農林業振興課
予算額	7,308千円

1 事業の背景・目的

自ら「稼ぐ」ことに取り組み、将来展望を切り開こうとする意欲ある農業者を支援することで、農業で稼げるモデルを作り、農業が魅力的な就業先の一つとなることを目指す。

2 事業の内容

福知山ならではの農林産物や加工品を「ふくちやまのエエもん」として認定することで、本市製品の新たな魅力を発見し、またアドバイザーからの専門的な知見を活用することで地域内外への発信や販路開拓のアドバイスをを行い、収益力のある特産物の育成と生産者の収益、経営力向上を図る。さらに、都市部への商談会等を案内することで、新たな販路開拓を図る。

3 決算額及び 交付金充当額 (単位：円)	費目	金額	概要	
	負担金及び交付金	885,000	商談会負担金ほか	
	委託料	2,384,000	ふくちやまのエエもん発掘業務委託	
	需用費等	181,001	消耗品費、印刷製本費	
	報償費	422,900	エエもん鑑定会審査員謝礼、エエもんマルシェ販促スタッフ謝礼	
決算額計		3,872,901	交付金充当額	1,960,450

4 事業の成果

令和4年度は新たに4品がエエもん認定品に追加された。また、関東圏で開催された商談会に認定者で参加された方があり、それぞれ販路拡大に向けてPRをすることができ、実際に販路拡大した事業者もあり、成果につながっている。

5 課題

他の農業者の見本となるには、市内での認知度を高める必要があり、生産者の意欲向上につながっていない。
 エエもん認定品の生産量の確保、生産者の意欲向上が必要である。

**6 R5年度以降の
予定**

現在子育て支援施設で開催している、エエもん認定品の販売方法を検討する。それぞれタイプの異なるエエもん認定者について、販路拡大につながる支援方法を検討する。

成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	R2	R3	R4
	農業所得が対前年度比 5%UPした認定者	人	0/17	0/17	4/22
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	R2	R3	R4
	エエもん認定品	品	6/6	5/5	4/5

担当課による評価 B(相当程度効果があった)

評価をつけた理由

商談会参加をきっかけに、新たな販路拡大に結び付いた事業者があったこと、また、エエもん認定品を市内で販売するマルシェを開催することで、認定品を知るきっかけを作ることができた。

R 4 地方創生交付金

福知山市・丹波市・朝来市 3市圏域の競争力強化による「稼ぐ地域」創造事業

事業名	産学官連携コンソーシアム事業（「知の拠点」推進事業）
担当課	市長公室 大学政策課
予算額	443,578千円

1 事業の背景・目的

福知山公立大学が北近畿地域における様々な課題解決に向けたシンクタンク機能を発揮するとともに、「知の拠点」の役割を果たすため、地域連携・地域協働を推進するための取組みを支援することで、北近畿地域の人材育成、産業振興、まちづくりに貢献する。

2 事業の内容

- ・小中学生を対象としたプログラミング教室を開催し、将来を担う人材育成を行った。
- ・産学公連携コンソーシアム「北近畿コラボスペース」を設立した。

3 決算額及び 交付金充当額 (単位：円)	費目	金額	概要	
		負担金及び交付金	11,500,000	福知山公立大学「知の拠点」推進事業交付金
	決算額計	11,500,000	交付金充当額	5,750,000

4 事業の成果

- ・多くの小中学生にデジタルの面白さを体感いただき、興味を持っていただいた。
- ・北近畿コラボスペースを設置し、地域の人材育成、産業振興、まちづくりを進める基盤を整備した。

5 課題

- ・北近畿コラボスペースが、地域の発展を牽引する新たな産業の創出、人材育成、まちづくりにつながる仕組みを検討する

6 R5年度以降の
予定

- ・公立大学法人福知山公立大学と連携し、活性化に効果的な仕組みの検証・実施を行う

成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	R2	R3	R4
		企業等との共同研究数	件	1/10	7/10
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	R2	R3	R4
	地域と大学の連携取組数 (包括協定締結数)	件	16/10	16/10	16/10

担当課による評価 B(相当程度効果があった)

評価をつけた理由 産官学連携コンソーシアムの設置を行い、新しい形の連携が展開できた。

令和4年度地方創生交付金関連実施事業検証シート

※地方創生関係交付金に係る事務事業の実績について記載しています。

(各事業の成果実績、活動実績は担当課が実施した事務事業評価による数値を抜粋)

NO.7

R 4 地方創生交付金

「海の京都連携都市圏」形成推進事業

事業名	海の京都DMO事業				
担当課	産業政策部 産業観光課				
予算額	11,106千円				
1 事業の背景・目的					
京都府北部（福知山市・宮津市・京丹後市・舞鶴市・綾部市・伊根町・与謝野町）を「海の京都」と位置付け、全国有数の競争力ある観光圏となることを目的に地域活性化と観光振興を資する事業を実施する。					
2 事業の内容					
一般社団法人京都府北部地域連携都市圏振興社（海の京都DMO）に対する自治体負担金。					
3 決算額及び 交付金充当額 (単位：円)	費目	金額	概要		
	負担金補助金及び交付金	7,964,000	海の京都DMO事業分担金		
	決算額計	7,964,000	交付金充当額	3,982,000	
4 事業の成果	京都府北部全体で観光による地域づくり、地域活性化のための施策を展開 [R 4 主要事業]①情報発信プロモーション②地域づくり支援③デジタルマーケティング④旅行商品等の造成、販売促進⑤インバウンド推進⑥食の魅力向上				
5 課題	新型コロナウイルスにより観光産業は大きな影響を受けたため、目標とするツアー取扱額やインバウンド体験商品額には達しなかった。				
6 R5年度以降の 予定	旅先納税の推進や、マーケティングに基づく誘客施策の展開、シンガポールや欧米豪を軸とするインバウンド事業に取り組む				
成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	R2	R3	R4
	観光入込客数	人	892,414/942,000	594,167/942,000	816,589/942,000
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	R2	R3	R4
	特産品販売額	万円	2,142/2,000	2,227/2,000	1,332/2,000
担当課による評価	C(効果があった)				
評価をつけた理由	新たに始めた旅先納税の取組や、デジタルマーケティングに基づく観光施策の展開等、ウィズコロナ・アフターコロナに向けた基盤整備を行うことができた。				

R 4 地方創生交付金 「海の京都連携都市圏」形成推進事業					
事業名	ふるさと就職おうえん事業（合同企業説明会・インターンシップ説明会事業）				
担当課	産業政策部 産業観光課				
予算額	890千円				
1 事業の背景・目的					
<p>高校生をはじめとする若者の地元企業への理解と関心を高め、地元への定着と地元企業の人材確保につなげるとともに、福知山地域の事業所と求職者との出会いの場を創出することで雇用の安定を図り、持続可能な地域雇用の実現をめざす。</p>					
2 事業の内容					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 合同就職説明会開催による市内企業と一般求職者・UIJターン希望者等とのマッチング機会創出 ・ 高校生ワークショップの開催による若者が地元企業を知る機会の提供 ・ 北京都ジョブパークとの共催による各種セミナーやカウンセリングの実施、スキルアップ支援 ・ その他、企業ガイド発行、公正採用啓発、人権ふれあいセンターでのパソコン講座、就職支援セミナー、個別就職相談会等の開催 					
3 決算額及び 交付金充当額 (単位：円)	費目	金額	概要		
	負担金補助金及び交付金	920,347	ふるさと就職おうえん事業負担金		
	決算額計	920,347	交付金充当額	460,173	
4 事業の成果	<p>合同就職説明会等には延べ386社、543人の参加があり、うち30人の就職内定につながった。舞鶴市・綾部市と合同で開催した高校生企業研究会には高校生81人、保護者14人、教員16人が参加し、市内の若者へ魅力ある地元企業を知るきっかけを提供した。</p>				
5 課題	<p>合同就職説明会においては参加を希望する企業が定員を上回る一方で、求職活動の多様化が進み参加者の減少がみられる。引き続きオンライン併用での開催に加え、イベントの周知方法についても模索していく必要がある。</p>				
6 R5年度以降の 予定	<p>合同就職説明会について、地元企業・参加者のニーズに応じてオンラインと対面のハイブリッド形式で開催し、引き続き両者のマッチング機会を創出していく。若者の地元企業就職の促進を図るため、高校生対象企業研究会の規模拡大や各関係機関との連携を強化し、DM発送等によるイベント周知などの広報活動を行う。</p>				
成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	R2	R3	R4
	就職内定者数	人	21/40	18/40	30/40
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	R2	R3	R4
	就職面接会参加企業数	社	235/160	322/160	386/160
担当課による評価	B(相当程度効果があった)				
評価をつけた理由	<p>オンライン形式と対面式を両立しながら合同就職説明会を開催することで、参加企業数及び就職内定者数ともに前年度を上回った。地元企業と求職者のマッチング機会を創出することができ、内定にもつなげることができたため効果があったと評価する。</p>				

R 4 地方創生交付金 「海の京都連携都市圏」形成推進事業					
事業名	移住・定住促進事業（地域ブランディング業務、わかもの未来会議）				
担当課	地域振興部 まちづくり推進課				
予算額	41,391千円				
1 事業の背景・目的					
<p>京都府北部7市町で構成する「京都府北部地域連携都市圏」を、移住や定住にふさわしい圏域として「地域ブランド」を確立することにより、必要とする人材の確保及び地域の振興につなげることを目的とする。</p>					
2 事業の内容					
<p>(1) 京都府北部地域移住ネットワークづくり（民間プレーヤーと行政が協力して移住につながるプロジェクトを企画・運営） (2) 地域Webサイト「たんたんターン」改修等 (3) 高校生“みらい”会議（ふるさとへの関心や愛着を醸成し、将来的なUターンにつなげるためのワークショップ） (4) 市町担当者連携会議（事業の進捗確認や今後の方向性について検討する会議）</p>					
3 決算額及び 交付金充当額 (単位：円)	費目	金額	概要		
	負担金補助金及び交付金	1,110,455	移住・定住促進事業負担金		
	決算額計	1,110,455	交付金充当額	555,227	
4 事業の成果	<p>(1) 民間主導で3つのプロジェクト（①まちの人事、②遊びでつなぐ地域での交流会、③お試し住宅）を実施。 (2) 情報集約型サイトへのデザイン変更などにより移住者目線のサイトにリニューアルした。 (3) 圏域内の公立市立合わせて9校20名の高校生が参加して市町を超えて交流を行った。 (4) 事業の進捗確認や次年度に向けての協議を行った。</p>				
5 課題	<p>コロナ禍を受けて全国的に地方移住への関心が高まる中、スケールメリットを活かして、ひとつの圏域として効果的な施策を打ち出していく必要がある。 また、行政だけでなく民間の力も借りて移住につながる仕組みや受入体制を一層整備していく必要がある。</p>				
6 R5年度以降の 予定	<p>本圏域への移住につながるようなプロジェクトを民間が主体となって行政と協働で進めていくと同時に、ひとつの圏域としてのプロモーションや情報発信を引き続き行う。</p>				
成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	R2	R3	R4
	制度利用による定住者数	人	37/20	71/20	52/40
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	R2	R3	R4
	新規移住希望者名簿登録数	件	274/100	384/100	312/100
担当課による評価	B(相当程度効果があった)				
評価をつけた理由	<p>「京都」というブランドの中でも自然豊かな北部を選択する都市部からの移住希望者は多く、本市でも移住者（空き家情報バンク制度を通じての移住者数）は増加しており（H30：34名、R1：31名、R2：37名、R3：71名、R4：52名）相当程度効果があったと評価する。</p>				

R 4 地方創生交付金 「海の京都連携都市圏」形成推進事業					
事業名	広域連携推進事業				
担当課	市長公室 経営戦略課				
予算額	3,128千円				
1 事業の背景・目的					
<p>人口減少が避けられない状況において、京都府北部地域や隣接する兵庫県の自治体と共通する地域の課題に対して、連携による取組を行うことによって、スケールメリットや相乗効果を得ながら圏域全体で地域活性化に取り組むための仕組みを構築する。</p>					
2 事業の内容					
<p>・京都府北部地域連携都市圏形成推進協議会における連携（福知山市、舞鶴市、綾部市、宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町）で協議会を構成し、総会、連携深化PT、幹事会、各部会等を開催し、連携ビジョンやアクションプランに基づき地方創生交付金を活用しながら連携事業を推進した。</p>					
3 決算額及び 交付金充当額 (単位：円)	費目	金額	概要		
	負担金補助金及び交付金	810,761	広域連携推進事業負担金		
	決算額計	810,761	交付金充当額	405,381	
4 事業の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・圏域で共通する地域課題等の解決を図るため、本市が幹事を担う教育部会において、合同技術者研修や自治体DXワークカレッジを行った。 ・自治体システム標準化に係る合同勉強会、Decidim研修会等 ・自治体DXワークカレッジ、北近畿自治体合同キャリアガイダンス等 				
5 課題	<p>連携推進に向けて事業を展開しているが、圏域内の住民の生活機能や利便性の向上が実感できるような連携の取組を行い、住民にも十分理解を得るなかで連携事業を展開していく必要がある。</p> <p>第2期ビジョンに掲げる産官学連携コンソーシアムの構築に向けて、地域課題の抽出等を進める必要がある。</p>				
6 R5年度以降の 予定	<p>教育部会においては、高等教育機関に広域連携に関する実態調査の結果を踏まえ圏域の高等教育機関の出口対策についてや、課題を7市で共有する福知山公立大学と連携した圏域内の職員を対象とした自治体DXに係る研修会を実施する。</p>				
成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	R2	R3	R4
	広域連携による事業数	事業	10/10	10/10	11/10
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	R2	R3	R4
	広域連携に関する各市理事者による協議	回	6/5	3/5	5/4
担当課による評価	B(相当程度効果があった)				
評価をつけた理由	<p>コロナ禍においても対面とWEBによるシステムを併用することにより柔軟に対応しながら北部7市町連携・及び丹波市、朝来市との3市連携事業を行い、目標値を達成することができた。今後は産学公連携組織「北近畿コラボスペース」を有効に活用しながら各部会での取組を深化させていく必要がある。</p> <p>連携推進に向け、着実に連携事業を実施しているが、圏域内の住民の生活機能や利便性の向上が実感できるような連携の取組を行い、住民にも十分理解を得るなかで連携事業を展開することと関係市町がしっかりとコミュニケーションをとりながら地域課題を発見し、解決に向けたしくみを構築していく必要がある。</p>				

R 4 地方創生交付金 「海の京都連携都市圏」形成推進事業					
事業名	農業生産組織等指導強化事業（農商ビジネスマッチング事業・オンライン商談会）				
担当課	産業政策部 農林業振興課				
予算額	1,076千円				
1 事業の背景・目的					
<p>福知山市で農産物を生産する生産者で組織する団体や地域での農産物生産の中核となる中心的担い手へ支援する組織等への育成強化を通じて、生産農家の生産力強化及び販売力の向上を図る。</p>					
2 事業の内容					
<p>北部地域連携都市圏内の生産者と都市部の飲食事業者を動画配信で繋ぐ農商オンラインビジネス商談会を実施する。 オンラインでの実施については、今後を見据えてオンラインを活用した商談会の有効性を検証するため、オンラインとした開催とする。</p>					
3 決算額及び 交付金充当額 (単位：円)	費目	金額	概要		
	負担金及び交付金	210,272	農業生産組織等指導強化事業負担金		
	決算額計	210,272	交付金充当額	105,136	
4 事業の成果	<p>令和5年2月下旬から3月上旬の7日間、オンライン商談会が開催され、参加事業者13社が参加した。 福知山市からは(株)Season、(株)小林ふぁーむ、(株)CraftBankの3社が商談会に参加し、新たな事業者とのマッチングの機会となった。 総視聴回数は3月末現在で2,111回であり、総インプレッション数は6万8千回を超えた。</p>				
5 課題	<p>配信型の商談会であったため、すぐに商談成立につながる事業者が少なかった。 今後も配信は継続されるため、商談成立に結び付いたケースがあるか、注視する必要がある。</p>				
6 R5年度以降の 予定	<p>令和5年度は過年度の実績を検証しつつ、一次産品を始めとする地場産品の販路開拓、6次産業化の促進等に向け、予算ゼロベースで必要な事業を検証する予定。 商談会については、令和5年度に地元金融機関が商談会を開催予定であるため、北部5市2町も広報等側面的な支援を行う予定である。</p>				
成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	R2	R3	R4
	農産物年間生産数量	トン	408/520	410/520	412/520
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	R2	R3	R4
	農産物年間生産者数 (水田活用農家)	戸	470/1,000	433/1,000	403/500
担当課による評価	C(効果があった)				
評価をつけた理由	<p>すぐに商談成立につながる事業者は少なかったが、商談会が配信型であり、アーカイブにも残ることから今後の商談成立につながる可能性があるため、効果があると評価した。</p>				

令和4年度地方創生交付金関連実施事業検証シート
 ※地方創生関係交付金に係る事務事業の実績について記載しています。
 (各事業の成果実績、活動実績は担当課が実施した事務事業評価による数値を抜粋)
 NO.12

R 4 地方創生交付金 「海の京都連携都市圏」形成推進事業					
事業名	公共交通維持改善事業				
担当課	建設交通部 都市・交通課				
予算額	83,968千円				
1 事業の背景・目的					
本市の公共交通のマスタープランである福知山市地域公共交通計画に基づき、地域の実情と市民ニーズに対応した交通体系の再編を進め、持続可能な地域公共交通を構築する。					
2 事業の内容					
京都府北部地域連携都市圏公共交通活性化協議会負担金					
3 決算額及び 交付金充当額 (単位：円)	費目	金額	概要		
	負担金及び交付金	21,916	公共交通維持改善事業負担金		
	決算額計	21,916	交付金充当額	10,958	
4 事業の成果	京都府北部地域連携都市圏公共交通計画に基づいて、自家用車に過度に頼らないまちづくりや広域観光と連携する公共交通の実現にむけ、公共交通事業者の人材不足の解消等に、参画市町連携で取り組んだ。				
5 課題	公共交通を取り巻く広域的課題については、長期的かつ継続的に取り組んでいかなければならない。				
6 R5年度以降の 予定	公共交通の維持にかかり、利用促進や課題の解決に広域的な取り組みをすすめる。				
成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	R2	R3	R4
	市民一人あたりの年間路線 バス利用回数	回	5.5/7	5.1/7	5.5/7
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	R2	R3	R4
	補助金額 (運行維持費のみ)	千円	73,508/54,762	67,739/54,762	71,436/61,265
担当課による評価	C(効果があった)				
評価をつけた理由	京都府北部地域連携都市圏公共交通活性化協議会において、地域住民、交通事業者、関係行政団体等の意見を聴きながら、事業実施に取り組めた。				

令和4年度地方創生交付金関連実施事業検証シート
 ※地方創生関係交付金に係る事務事業の実績について記載しています。
 (各事業の成果実績、活動実績は担当課が実施した事務事業評価による数値を抜粋)
 NO.13

R 4 地方創生交付金 「海の京都連携都市圏」形成推進事業					
事業名	避難のあり方検討会推進事業				
担当課	危機管理室				
予算額	20,583千円				
1 事業の背景・目的					
本市の避難のあり方について、令和元年度・2年度で取り組んだ「福知山市避難のあり方検討会」の最終とりまとめを踏まえ、市民の安全で確実な避難行動に結びつくよう、検討会で定められた取組を推進する。					
2 事業の内容					
避難のあり方検討会における、最終とりまとめに掲げられた6つのテーマについて具現化を図るべく施策を実施している。 また、本事業内において「京都府北部連携都市圏形成推進協議会」における環境・防災部会への予算も組んでいるところである。本協議会において災害時の応援協定を締結していることから、この枠組みにおける、5市2町の環境・防災関係の横の展開を進めているところである。					
3 決算額及び 交付金充当額 (単位：円)	費目	金額	概要		
	負担金及び交付金	56,332	避難のあり方検討会推進事業		
	決算額計	56,332	交付金充当額	28,166	
4 事業の成果	災害時の応援協定をスムーズな運営とするために、標準運用手順書の作成を実施しているところである。 また、これら応援を実施するにあたり、その調整の方法など訓練を実施するとともに、環境部会と合同で外来講師を招いた職員向け研修にも取り組んでいるところである。				
5 課題	災害時のオペレーションは多岐にわたり、また、大規模災害の経験をしてきた職員も年々減少していることから、何を、どこまで、この圏域で取り決めるを実施しておくべきなのかが課題である。また、それらが実効性を担保することも重要である。				
6 R5年度以降の 予定	標準運用手順書第3編（避難所運営支援）・第4編（生活再建支援）の作成を実施する。				
成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	R2	R3	R4
	市民防災研修の参加者数	人	0/0	481/280	311/280
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	R2	R3	R4
	推進懇話会開催回数	回	0/0	1/1	1/1
担当課による評価	C(効果があった)				
評価をつけた理由	圏域も広域であり、担当者が頻繁に集まることは困難である。幅広い防災部門において5市2町が同じ方向性を見出すには、時間を要するものである。				

令和4年度地方創生交付金関連実施事業検証シート

※地方創生関係交付金に係る事務事業の実績について記載しています。

(各事業の成果実績、活動実績は担当課が実施した事務事業評価による数値を抜粋)

NO.14

R 4 地方創生交付金

「海の京都連携都市圏」形成推進事業

事業名	「知の拠点」推進事業				
担当課	市長公室 大学政策課				
予算額	443,578千円				
1 事業の背景・目的					
<p>福知山公立大学が北近畿地域における様々な課題解決に向けたシンクタンク機能を発揮するとともに、「知の拠点」の役割を果たすため、地域連携・地域協働を推進するための取組みを支援することで、北近畿地域の人材育成、産業振興、まちづくりに貢献する。</p>					
2 事業の内容					
<p>・大学における数理・データサイエンスセンターや国際センター、地域防災研究センターにおける地域連携活動や、学生スタートアップ事業などに取り組んだ。</p>					
3 決算額及び 交付金充当額 (単位：円)	費目	金額	概要		
	負担金及び交付金	38,617,681	福知山公立大学「知の拠点」推進事業交付金		
	需用費	99,674	消耗品等		
	報酬	1,470,000	教育関連顧問報酬		
	旅費	100,326	教育関連顧問旅費		
	決算額計	40,287,681	交付金充当額	20,143,840	
4 事業の成果	各センターの取組みを通して、地域のDX人材の育成や、雨量水位計の設置活用などの地域貢献を行った。				
5 課題	地域連携拠点である北近畿地域連携機構の情報を大学ホームページ等を活用して積極的に発信し、地域住民や北近畿地域の企業、行政、各種団体等の利用を促進するとともに、京都府北部や兵庫県北部を対象とした地域連携事業を積極的に展開していく必要がある。				
6 R5年度以降の 予定	継続実施				
成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	R2	R3	R4
	企業等との共同研究数	件	1/10	7/10	7/10
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	R2	R3	R4
	地域と大学の連携取組数 (包括協定締結数)	件	16/10	16/10	16/10
担当課による評価	B(相当程度効果があった)				
評価をつけた理由	多方面から多種多様な地域連携にかかる事業を展開することで、多様化するニーズに対応し地域連携を促進した。				

令和4年度地方創生交付金関連実施事業検証シート

※地方創生関係交付金に係る事務事業の実績について記載しています。

(各事業の成果実績、活動実績は担当課が実施した事務事業評価による数値を抜粋)

NO.15

R 4 地方創生交付金
「海の京都連携都市圏」形成推進事業

事業名	スマートシティ推進事業（有害鳥獣捕獲）
担当課	産業政策部 農林業振興課
予算額	16,294千円

1 事業の背景・目的

有害鳥獣対策に関する先進的知見を持つ兵庫県立大学の協力を得て、有害鳥獣対策に意欲的な地域から選定したモデル地区において、ICT機器を活用した地域主体の積極的な有害鳥獣対策を推進する。また、モデル地区で得られたデータやノウハウを有効活用し、モデル地区以外の地域においても「地域主体の獣害対策」を推進させるため出前講座を実施する。
兵庫県立大と連携・協力して、ICTを活用した様々な有害鳥獣に関するデータを可視化するシステムを活用し、各地域における獣害対策の現状と課題を明確にすることで地域の獣害対策に係る意欲向上を図る。

2 事業の内容

有害鳥獣対策に先進的な知見を持つ兵庫県立大学の協力を得て、対策に意欲的な地域から選定した獣害対策モデル地区において、ICT機器等を効果的に活用し、地域・市・大学が協働して対策に取り組むことで、地域住民が主体となった獣害対策の体制構築を図り、それを市内全域に水平展開し、農作物被害軽減のためのノウハウを広めていく。

3 決算額及び 交付金充当額 (単位：円)	費目	金額	概要	
	委託料	13,567,840	ICTを活用した鳥獣の科学的な管理手法検討研究委託業務	
	需用費	49,500	獣害対策用トレイルカメラ購入	
	決算額計	13,617,340	交付金充当額	6,808,670

4 事業の成果
遠隔監視・遠隔捕獲が可能なICT囲いわなや遠隔監視可能な通信機能付き赤外線センサーカメラなどを用いて、獣の動きなどを可視化することにより、これまでは駆除従事者（狩猟免許保持者）のみが従事していた捕獲活動を、地域全体で取り組むことができ、地域の獣害対策に対するモチベーションの向上や農作物被害軽減に繋がった。

5 課題
ICT機器の導入に関しては国の交付金などの補助制度があるものの、その後の通信費などのランニングコストに対する補助制度が無い。地域が毎月発生するコストを負担することが難しいため、ICT機器の活用が普及しづらい。

6 R5年度以降の
予定
○令和4年度に導入した獣害対策に関する情報をクラウド上に一元管理することができる獣害対策可視化システムの運用に向けて、データの集約を図り、既存業務の効率化に繋がるアップデートを検討する。
○福知山公立大学情報学部とも連携して、ICT機器の運用にかかるコスト軽減等に取り組む。

成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	R2	R3	R4
	「地域主体の獣害対策」 取り組み地区数	人	0/0	2/2	3/3
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	R2	R3	R4
	モデル地区獣害対策集落 指導	件	2/0	13/12	12/15

担当課による評価 B(相当程度効果があった)

評価をつけた理由
獣害対策の取り組みの成果が数字に表れるには数年かかることが一般的である中で、モデル地区においては捕獲数（R元：0頭→R3：25頭、R4：20頭）、被害状況（複数個所で全滅の被害→農業共済の対象となるような被害ゼロ。被害面積の大幅な減少及び被害の程度の軽減）ともに、地域住民が実感できるレベルで効果が出ている。

令和4年度地方創生交付金関連実施事業検証シート

※地方創生関係交付金に係る事務事業の実績について記載しています。

(各事業の成果実績、活動実績は担当課が実施した事務事業評価による数値を抜粋)

NO.16

R 4 地方創生交付金
「海の京都連携都市圏」形成推進事業

事業名	シニアワークカレッジ事業
担当課	市長公室 大学政策課
予算額	3,000千円

1 事業の背景・目的

企業や事業所におけるデジタルトランスフォーメーション（DX）とシニア世代等の更なる活用を促すために、「シニアワークカレッジ」を開設し、市内企業・事業所の従業員にリカレント教育（学び直し）によるスキルアップに繋げる。

2 事業の内容

福知山公立大学の知見を活用しAIやデータサイエンスなどビジネスの現場で活用できる情報学講座を福知山公立大学に委託し実施。
【令和4年度実施プログラム】
・データサイエンスアドバンスコース・AI人材育成コース・広報用動画制作コース
・組込みハードウェア設計コース・キーワードから深掘するDXコース

3 決算額及び 交付金充当額 (単位：円)	費目	金額	概要	
	報酬等	528,294	シニアワークカレッジ運営事業事務経費等	
	使用料及び賃借料	147,572	複写機使用料	
	委託料	2,090,000	シニアワークカレッジ運営業務委託料	
	需用費	14,134	用度物品等	
	決算額計	2,780,000	交付金充当額	1,390,000

4 事業の成果

講座受講者がビジネス等で役立つ最新の情報技術を学び、今後のキャリアに活かすことで地域産業の活性化につながっている。

5 課題

コースによって参加人数にばらつきがあったため、ヒアリング等を実施し参加者のニーズに合ったコースを設定する。

**6 R5年度以降の
予定**

継続実施（コースの数・内容については大学と協議の上、毎年度見直しを行う）

成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	R2	R3	R4
	受講者のキャリア開拓件数	件	-	0/1	0/1
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	R2	R3	R4
	講座受講数	人	-	28/30	58/30

担当課による評価 B(相当程度効果があった)

評価をつけた理由 意欲的な市民に対し講座を実施することで地域や職場への還元が行えたことともに、リスキリング教育に関する認知度の向上に効果を発揮した。

R 4 地方創生交付金 「子育て、子育てにやさしい」京都創生プロジェクト事業					
事業名	NEXTふくちやま産業創造事業				
担当課	産業政策部 産業観光課				
予算額	12,107千円				
1 事業の背景・目的					
<p>コロナ禍による社会価値の変化を踏まえ、ニーズの変化に対応した新たな価値創造が必要となる中、この担い手となる新たな企業等の創出に取り組む。</p> <p>その過程で、地域内外の人や企業が繋がる「地域間ネットワーク」の構築と先進的企業の誕生、連携、集積という循環を地域主体が自律的に回す「地域エコシステム」を生み出し、先進的な企業をはじめとする多様な産業を福知山に集積させ、雇用の創出や雇用水準を高め、定住人口や交流人口、UIJターン人口の増加をめざす。</p>					
2 事業の内容					
<p>○機運醸成イベント「NEXT産業創造塾」開催 地域の「起業に挑戦する風土」を構築するため、先進地の講師を招聘し、先進事例に触れる機会を創出する。また、広く起業への機運醸成を図るとともに、地域間のネットワーク構築にも繋げる。NEXT産業創造プログラムの周知も図るため、年2回程度開催する。</p> <p>○起業家等人材育成プログラム「NEXT産業創造プログラム」開催 起業や企業内起業等をめざす人を対象に、起業に必要とされる高度な知識やスキルを修得できるよう本プログラムを実施、社会人の学び直しを推進する。本プログラムを通じて先進的な企業や起業家との交流を生み出すことで、新たな産業の創出に繋げる。</p> <p><めざす人物像>アントレプレナー・イントレプレナー等 <カリキュラム>基礎科目、事例研究型科目、PBL型科目 <開催時期>8月上旬～2月上旬（年度末にピッチイベント開催）<募集定員>15人程度</p>					
3 決算額及び 交付金充当額 (単位：円)	費目	金額	概要		
	委託料	10,758,722	NEXT産業創造プログラム運営業務委託料等		
	決算額計	10,758,722	交付金充当額	5,379,360	
4 事業の成果	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度NEXT産業創造プログラムでは、募集定員15人程度のところ、23人が受講し、最終ステップまで進まれた修了者21人が6つの新規事業を創出された。 クラウドファンディングを活用しテストマーケティングを実施した3件で、218人から総額170万円の資金調達を達成された。 				
5 課題	新たな産業や企業の誕生、集積という目的を達成するためには、産業振興のグランドビジョンを産官学と広く共有し、連携していくことが必要不可欠である。				
6 R5年度以降の 予定	令和5年度についても引き続きNEXT産業創造プログラムを実施し、新たな産業の創出をめざす意欲ある人材を支援する。また、プログラム修了者を対象とした補助制度を活用し、創出された産業の発展をさらに後押しする。				
成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	R2	R3	R4
	企業数・事業提携数・企業内起業数	件	0/0	21/0	19/4
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	R2	R3	R4
	プログラム参加者数	人	-	22/15	23/15
担当課による評価	A(非常に効果があった)				
評価をつけた理由	イノベーションを創出する起業家輩出の障壁として、2017年度の中小企業白書からは、「経営知識の不足」「資金方法がわからない」「事業構築経験がない」などがあげられている。NEXT産業創造プログラムでは、それら起業を阻む壁に対して、処方箋となるよう3つのステップから構成されるカリキュラムを提供している。本プログラムからは、クラウドファンディングを活用した資金調達等を通じて本地域を中心とした人や企業との繋がりが創出されている。				

令和4年度地方創生交付金関連実施事業検証シート

※地方創生関係交付金に係る事務事業の実績について記載しています。

(各事業の成果実績、活動実績は担当課が実施した事務事業評価による数値を抜粋)

NO.18

R 4 地方創生想交付金

あなたとともに「心やすらぐ地域の暮らし」を ～みんなが主役の地域振興事業～

事業名	森の京都DMO事業
担当課	産業政策部 産業観光課
予算額	8,952千円

1 事業の背景・目的

京都府中部地域（福知山市、亀岡市、南丹市、京丹波町、綾部市、京都市右京区京北）において、「森の京都」エリアの認知度向上と地域住民自らが地域を誇りに思い、地域外の人々に魅力を発信し、交流人口や関係人口の拡大によって、持続可能な観光地域づくりを目指す。

2 事業の内容

一般社団法人森の京都地域振興社（森の京都DMO）に対する自治体負担金。

3 決算額及び 交付金充当額 (単位：円)	費目	金額	概要	
		負担金補助金及び交付金	6,458,000	森の京都DMO事業分担金
	決算額計	6,458,000	交付金充当額	3,229,000

4 事業の成果

京都府中部全体で観光による地域づくり、地域活性化のための施策を展開
[R 4 主要事業]①マーケティング調査②着地型旅行商品の造成、滞在型コンテンツの開発促進、看板商品の創出③SNSや動画を活用したプロモーション④教育体験旅行の推進

5 課題

新型コロナウイルスにより観光産業は大きな影響を受けたため、目標とするツアー数や集客数には達しなかった。

6 R5年度以降の
予定

マーケティング調査等による顧客拡大やインバウンドの誘客促進と海外に向けた情報発信等に取組む

成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	R2	R3	R4
		観光入込客数	人	892,414/942,000	594,167/942,000
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	R2	R3	R4
		観光プロモーション等	回	2/8	5/3

担当課による評価

C(効果があった)

評価をつけた理由

御城印を中心とした物販販売額が目標を大きく上回ったほか、森の京都ファンクラブの創設によりマーケティング調査等による顧客拡大の基盤整備を行うことができた。

R 4 地方創生交付金

あなたとともに「心やすらぐ地域の暮らし」を ～みんなが主役の地域振興事業～

事業名	ふくちやまサードプレイスツーリズム事業
担当課	産業政策部 産業観光課
予算額	3,917千円

1 事業の背景・目的

アフター大河及びウィズコロナの観光のあり方を見据え、国内外のFITをターゲットとし、福知山の多様な地域資源を体験型観光コンテンツとして磨き上げ、現地ツアーの実施、アクティビティを動画で可視化し、これらを販売するポータルサイト「KITAIRO」を構築することで、地域経済を交流人口拡大により活性化させ持続可能な観光振興を目指す。

2 事業の内容

- ・体験型観光コンテンツのPR・販売を行うポータルサイト「北色」での販売額に応じて、補助率が変動する成果連動型補助事業を実施
- ・観光客へのアンケートを実施し本市への観光客動向を委託事業によって実施

3 決算額及び 交付金充当額 (単位：円)	費目	金額	概要	
		委託料	1,704,000	福知山市観光動向調査実施業務
	決算額計	1,704,000	交付金充当額	852,000

4 事業の成果
成果連動型補助金を活用した体験型観光販売実績は、体験者74名、販売額503,000円となり、補助金の交付対象販売額には至らなかった。
観光動向調査においては、目標とする500サンプルに対して1196サンプルを回収した。

5 課題
体験型観光販売実績において、令和3年度の年間販売額を下回っているため、「北色」の周知及び利用促進が課題である。

6 R5年度以降の
予定
北色の販売促進に向けたプロモーションの実施（BtoCだけでなく、旅行会社やDMO等と連携したBtoBtoCプロモーションの実施）
令和4年度から継続して観光動向調査の実施

成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	R2	R3	R4
		観光消費額（販売額）	千円	0/0	1,137/5,000
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	R2	R3	R4
		体験型コンテンツ数	個	0/0	11/10

担当課による評価 C(効果があった)

評価をつけた理由 市独自の観光動向調査の実施により、観光動向の把握や、今後の施策実施等に効果的であった。

R 4 地方創生交付金					
あなたとともに「心やすらぐ地域の暮らし」を ～みんなが主役の地域振興事業～					
事業名	移住・定住促進事業				
担当課	地域振興部 まちづくり推進課				
予算額	41,391千円				
1 事業の背景・目的					
<p>コロナ禍を契機に全国的に地方移住への関心が高まる中、本市への移住希望者は増加傾向にある。オンラインと現地での支援を臨機応変に組み合わせて、多様化する移住希望者のニーズに合った支援を行い、関係人口や将来的な移住・定住者の増加と担い手による地域振興を図る。</p>					
2 事業の内容					
<p>移住希望者・移住者に関する支援及び情報発信を行う。</p>					
3 決算額及び 交付金充当額 (単位：円)	費目	金額	概要		
	使用料及び賃借料	1,056,000	SMOUT使用料		
	決算額計	1,056,000	交付金充当額	528,000	
4 事業の成果	<p>移住希望者に向けてSMOUTやSNSを活用してウェブでの情報発信を強化した結果、空き家情報バンク制度を通じての移住者数・新規移住希望者数ともに過去最多を更新した。 移住者数：25世帯52人 新規移住希望者数：271世帯525人</p>				
5 課題	<p>本市で増加傾向にある20～50代の移住者のさらなる獲得に向けて、ターゲットを明確にしたプロモーションやニーズに沿った情報発信を行う必要がある。また、コロナ禍以降定着しつつあるリモートワークなどの新しい働き方を実践している層へのアプローチも課題となっている。</p>				
6 R5年度以降の 予定	<p>ターゲットを明確にした上で、ウェブ媒体を中心とした継続した情報発信を行う。</p>				
成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	R2	R3	R4
	制度利用による定住者数	人	37/20	71/20	52/40
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	R2	R3	R4
	新規移住希望者名簿登録数	件	274/100	384/100	312/100
担当課による評価	B(相当程度効果があった)				
評価をつけた理由	<p>本市の移住者（空き家情報バンク制度を通じての利用者数）は増加しており（H30：34名、R1：31名、R2：37名、R3：71名、R4：52名）相当程度効果があったと評価する。</p>				

R 4 地方創生交付金
 あなたとともに「心やすらぐ地域の暮らし」を ～みんなが主役の地域振興事業～

事業名	みんなのまちづくり推進事業
担当課	地域振興部 まちづくり推進課
予算額	1,562千円

1 事業の背景・目的

若者のふるさとへの愛着を醸成し、地域で活動する人材を育成することを目的として、若者がまちの未来について語り合い、地域に係る具体的な活動をする場を提供する。

2 事業の内容

高校生と大学生が自ら地域に係る事業を企画・実践していく「未来ラボ事業」において、学生が主体となってまちづくりの取組みを進める。

3 決算額及び 交付金充当額 (単位：円)	費目	金額	概要	
	使用料及び賃借料等	9,400	アーキテンプ施設使用料	
	報償費	332,422	学生アルバイト及び講師報償費	
	決算額計	341,822	交付金充当額	170,911

4 事業の成果

- ・「未来ラボ事業」において、4組が活動プロジェクトを実施した。移住者発掘の取組や大河ドラマ「麒麟が来る」に関連した地域を盛り上げる取組など、学生が地域に向き合うことでふるさとへの思いや地域に関わることへの学びを深めることに繋がった。
- ・「わかもの会議」を実施し、地域の実業家などの講演を通じて、若者と地域が繋がるまちづくりについて学ぶ場を提供し、地域活性化への意識醸成に繋がった。

5 課題

課題によっては、関わり先の選定に時間がかかり、事業の実施に十分な時間がとれないチームがあった。伴走支援ないしはサポートの仕組みについて検討が必要である。

6 R5年度以降の予定

令和4年度については、市の直営事業とし、大学に協力いただくことで実施していく。それぞれの得意分野に手役割を分担し、より効果的に事業を実施していく。

成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	R2	R3	R4
	高校生・大学生世代が主体となるまちづくりの取組件数	件	-	-	4/5
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	R2	R3	R4
	高校生・大学生の参加人数	人	-	-	24/25

担当課による評価 B(相当程度効果があった)

評価をつけた理由

- ・福知山市内にある複数の高校から参加があり、また他府県の高校生並びに大学生ともつながりができ、関係人口の創出につながった。
- ・学生が実行委員会形式で事業を実施することで、若者の主体性の育成に繋がった。

R 4 地方創生交付金
移住促進により地域を元気にするプロジェクト「移住するなら京都」

事業名	公共交通維持改善事業
担当課	建設交通部 都市・交通課
予算額	83,968千円

1 事業の背景・目的

本市の公共交通のマスタープランである福知山市地域公共交通計画に基づき、地域の実情と市民ニーズに対応した交通体系の再編を進め、持続可能な地域公共交通を構築する。

2 事業の内容

本市の公共交通のマスタープランである福知山市地域公共交通計画で示す地域公共交通の将来像を実現するための施策と具体的な取組を推進するアクションプランである福知山市地域公共交通利便増進実施計画を策定した。

3 決算額及び 交付金充当額 (単位：円)	費目	金額	概要	
	負担金及び交付金	5,500,000	福知山市地域公共交通会議負担金	
	決算額計	5,500,000	交付金充当額	2,750,000

4 事業の成果

地域公共交通の利便増進を図るための具体的な事業について、対象区域や実施年度、実施の方針や実施方法について定めた。

5 課題

本計画で定めた地域公共交通の再編と利便性向上について、しっかりと利用者及び地域の意見を反映しながら進めていく必要がある。

**6 R5年度以降の
予定**

事業実施に係る利用者・交通事業者・地域住民のヒアリングを行う。

成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	R2	R3	R4
	市民一人あたりの年間路線 バス利用回数		回	5.5/7	5.1/7
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	R2	R3	R4
	補助金額 (運行維持費のみ)		千円	73,508/54,762	67,739/54,762

担当課による評価 A(非常に効果があった)

評価をつけた理由 地域公共交通の再編と利便性向上に係る具体的事業を示した利便増進実施計画が策定できた。

令和4年度地方創生交付金関連実施事業検証シート

※地方創生関係交付金に係る事務事業の実績について記載しています。

(各事業の成果実績、活動実績は担当課が実施した事務事業評価による数値を抜粋)

NO.23

地方創生交付金
移住促進により地域を元気にするプロジェクト「移住するなら京都」

事業名	有償運送事業				
担当課	建設交通部 都市・交通課				
予算額	11,607千円				
1 事業の背景・目的					
<p>自家用有償旅客運送（福祉有償運送及び交通空白地有償運送）の適正な運行を審査し、事業実施団体の運営を支援することにより、タクシー等の公共交通機関が不在である地域又は介助が必要等の理由により十分な輸送サービスが確保されない市民の生活移動手段の確保を図る。</p>					
2 事業の内容					
<p>三和、大江、鴨野町でまちづくり住民組織等が運行する交通空白地有償運送にかかり、運行経費の支援を行った。</p>					
3 決算額及び 交付金充当額 (単位：円)	費目	金額	概要		
	負担金及び交付金	4,370,000	交通空白地域移送サービス事業費補助金		
	決算額計	4,370,000	交付金充当額	2,185,000	
4 事業の成果	<p>交通空白地において、主に自家用車での移動が困難な地域住民の生活交通手段として、運行回数延べ2,609回、輸送人員延べ3,030人の移送を行った。</p>				
5 課題	<p>高齢化や人口減少、燃料価格の高騰などの社会情勢の影響により、担い手となる人材の不足や、運行経費の高騰が懸念される。</p>				
6 R5年度以降の 予定	<p>引き続き、交通空白地において、地域住民の生活交通として維持していけるよう支援を行う。</p>				
成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	R2	R3	R4
	福祉有償運送利用者数	人	18,353/30,000	19,021/30,000	19,841/20,000
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	R2	R3	R4
	補助対象事業者数(福祉)	団体	4/8	4/8	4/8
担当課による評価	A(非常に効果があった)				
評価をつけた理由	<p>地域で必要とされる移送需要に対して、適正にサービスを提供することができた。</p>				

令和4年度地方創生交付金関連実施事業検証シート

※地方創生関係交付金に係る事務事業の実績について記載しています。
 (各事業の成果実績、活動実績は担当課が実施した事務事業評価による数値を抜粋)

NO.24

R 4 地方創生交付金 京都文化を背景として世界市場で存在感を放つ、京都の伝統産業の「生活文化提案型産業」への変革促進事業					
事業名	やくの木と漆の館事業				
担当課	地域振興部 夜久野支所				
予算額	5,688千円				
1 事業の背景・目的					
<p>夜久野は古来日本でも有数の漆の産地であり、人々の暮らしを支えてきた生業は漆掻きであった。そんな夜久野の歴史を残し、伝えていくことを目的に設置された「やくの木と漆の館」を、丹波漆の伝統継承と漆産業の振興を目的に設立された「NPO法人丹波漆」の活動と連携を図りながら管理運営し、地元の漆を使った夜久野ならではの製品を作ること、丹波漆の良さを伝えていく。</p>					
2 事業の内容					
<p>漆に関する資料展示、漆作家の作品を展示する企画展の開催、漆器の制作及び販売、漆塗体験者への指導、金継ぎ教室及び蒔絵教室の開催など。</p>					
3 決算額及び交付金充当額 (単位：円)	費目	金額	概要		
	負担金及び交付金	50,000	日本漆工協会会費等		
	使用料及び賃借料	58,034	デジタル複合機賃貸借料		
	事務経費	2,595,966	上生漆ほか購入代金等		
	決算額計	2,704,000	交付金充当額	1,352,000	
4 事業の成果	<p>丹波漆の伝承と、漆塗や漆の絵付けなど様々な漆芸が学べる体験型施設として運営するとともに、漆器の制作販売や、漆芸作家作品等の展示、各種資料展示、体験教室などを通じて地域文化の振興を図った。 また、文化庁が国宝や重要文化財の修復に係る上漆を外国産漆から国産漆に切り替える方針を示す中、京都府も夜久野地域の漆の再生に向けて支援を強化しており、府・市・NPO法人丹波漆との連携が強化された。</p>				
5 課題	<p>道の駅「農匠の郷やくの」の運営が不安定となっていることで、関連した集客が得られなくなっている。休館となっている施設の早期の活用と道の駅の活性化に向け、他の施設と連携を図ることで、相乗効果による施設利用者増を目指す必要がある。</p>				
6 R5年度以降の予定	<p>引き続き丹波漆の伝承館として、新たな商品開発や夜久野産丹波漆を使用した漆器等により丹波漆の情報を発信するとともに、キャッシュレス決済にも対応することで入館者数、売り上げの増加を目指す。 また、道の駅「農匠の郷やくの」の特徴ある施設として他の施設や団体と協働し、やくのエリア全体の集客増を図るとともに、販路開拓に努める。</p>				
成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	R2	R3	R4
	入館者	人	1,012/1,500	857/1,500	1,365/1,500
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	R2	R3	R4
	蒔絵・金継ぎ教室開催	日	38/33	28/33	40/33
担当課による評価	C(効果があった)				
評価をつけた理由	<p>NPO法人丹波漆が漆を植栽して育て、やくの木と漆の館において漆器の展示・制作・販売・体験等を行うことで役割分担ができており、官民が連携する形で漆の魅力を発信することで来館者は一定確保できている。 また、成果実績、活動実績とも前年度実績を上回っていることから一定成果を上げていると評価できる。</p>				

地方創生道整備推進交付金 「北近畿の拠点“福知山”ネットワークを強化する道作り計画 ～広域連携の強化小さな拠点を結ぶ地域連携の強化～」

事業名	地域間交流促進ネットワーク事業（市道）
担当課	建設交通部 道路河川課
予算額	34,818千円

1 事業の背景・目的

市道、林道の一体的な整備により、市内の道路網を整備し、交通の利便性、地域間交流の促進、交流ネットワークの強化を通じて、災害時における避難経路の確保、安全・安心な道路環境、観光入込客数の増加を図る。

2 事業の内容

広域的な道路網の整備とこれに接続する幹線道路の改良を行い危機対応の強化を図る。
(市道10路線、9,755m)

3 決算額及び 交付金充当額 (単位：円)	費目	金額	概要	
	工事請負費	34,818,000	上荒河観音寺線道路舗装改良工事、笹場小野線道路改良工事	
決算額計	34,818,000	交付金充当額	17,409,000	

4 事業の成果

地域間を結ぶ幹線的な道路など優先度の高い路線を整備し、地域間の連携強化を行いネットワークの強化、災害時における避難経路の確保を行い安心・安全な道路環境を整えることができた。しかし、コロナ禍によるイベントの中止等により、観光入込客数が減り、年度計画を達成できなかった。

5 課題

用地買収を伴う事業や、他事業と連携を図り進める事業においては、相手方との交渉や調整に困難を伴い工程に遅れが生じる。

6 R5年度以降の予定

新規道整備交付金の活用により、より一層の誘客効果を図る。

成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	R2	R3	R4
	工事完成路線	路線		0/8	1/4
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	R2	R3	R4
	事業実施路線	路線		3/1	4/4

担当課による評価 C(効果があった)

評価をつけた理由

令和4年度は、工事完成路線が2路線で、事業実施路線は増加した。観光入込客数は達成できなかった。

地方創生道整備推進交付金 「北近畿の拠点“福知山”ネットワークを強化する道作り計画 ～広域連携の強化小さな拠点を結ぶ地域連携の強化～」

事業名	地域間交流促進ネットワーク事業（林道）
担当課	産業政策部 農林業振興課
予算額	20,600千円

1 事業の背景・目的

市道、林道の一体的な整備により、市内の道路網の整備をし、交通の利便性、地域間交流の促進、交流ネットワークの強化を通じて、災害時における避難経路の確保をし、安全・安心な道路環境、観光入込客数の増加を図る。

2 事業の内容

広域的な道路網の整備とこれに接続する幹線道路の改良を行い危機対応の強化を図る。
 (林道大江山線法面改良工事 L=26m 法面保護工(落石防止網)A=323㎡、支障木伐採工A=88㎡)

3 決算額及び 交付金充当額 (単位：円)	費目	金額	概要	
	工事請負費	20,652,500	林道大江山線法面改良に係る工事請負費	
	決算額計	20,652,500	交付金充当額	10,300,000

4 事業の成果
 観光道路として市管理林道を整備するものであり、市道とあわせてネットワークを構築するための重要な事業である。
 国定公園もあり、登山客も多く利用する林道大江山線の法面保護を行い、観光道路としての利用の促進に寄与することができた。

5 課題
 他の市管理林道についても法面保護等を要する箇所があるため、改善が必要である。

6 R5年度以降の
 予定
 新たに国定公園にある林道大谷線、林道新大谷線の落石防止に向けて事業展開を行っていく。

成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	R2	R3	R4
	国定公園への来訪者数	人	114,000/257,000	74,000/257,000	集計中/257,000
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	R2	R3	R4
	事業実施延長（大江山線）	m	42/51	48/45	26/35

担当課による評価 B(相当程度効果があった)

評価をつけた理由
 災害時のレジリエンス強化と安全な交通環境を確保するとともに、観光道路としても需要のある箇所を事業地とし、効率的・効果的な施工を行うことができたため。

令和4年度地方創生交付金関連実施事業検証シート

※地方創生関係交付金に係る事務事業の実績について記載しています。

(各事業の成果実績、活動実績は担当課が実施した事務事業評価による数値を抜粋)

NO.27

R 4 地方創生拠点整備交付金 新鉄道館の整備による持続的な歴史的歴史・文化の継承と誘客の拠点化計画					
事業名	新鉄道館の整備による持続的な歴史的歴史・文化の継承と誘客の拠点化計画				
担当課	産業政策部 産業観光課				
予算額	325,867千円				
1 事業の背景・目的					
<p>鉄道のマチの歴史継承及び観光誘客の拠点として(仮称)福知山鉄道館ポッポランドを建設する。</p>					
2 事業の内容					
(仮称) 福知山鉄道館ポッポランド新築工事					
3 決算額及び 交付金充当額 (単位:円)	費目	金額	概要		
	工事費	288,178,000	新鉄道館に係る工事費等		
	決算額計	288,178,000	交付金充当額	144,089,000	
4 事業の成果	(仮称)福知山鉄道館ポッポランドの本体の建設を完了し、「鉄道のマチ」福知山のアイデンティティの継承と新たな観光誘客のシンボルとすることができた。				
5 課題	館の運営にあたっては市の直営となるが、民間活力の活用も含めた多様な主体との連携による館の魅力向上を進めていく必要がある。				
6 R5年度以降の 予定	8月の開館に向け、引き続き関連する工事や業務委託を進めるとともに、館の運営に係る各種契約の締結や体制の整備を行う。				
成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	R2	R3	R4
	建物完成	回	-	-	0/1
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	R2	R3	R4
	関係者協議会数	回	8/10	19/10	10/10
担当課による評価	C(効果があった)				
評価をつけた理由	(仮称)福知山鉄道館ポッポランドの本体を建設することができ、「鉄道のマチ」福知山のアイデンティティの継承と新たな観光誘客のシンボルとすることができたため。				

令和4年度地方創生交付金関連実施事業検証シート

※地方創生関係交付金に係る事務事業の実績について記載しています。

(各事業の成果実績、活動実績は担当課が実施した事務事業評価による数値を抜粋)

NO.28

R 4 地方創生拠点整備交付金 北近畿デジタル田園都市拠点施設整備計画					
事業名	北近畿デジタル田園都市拠点施設整備計画（知の拠点推進事業）				
担当課	市長公室 大学政策課				
予算額	443,578千円				
1 事業の背景・目的					
<p>福知山公立大学が「知の拠点」の中心的組織として事業を展開するために、教育研究の高度化を図る大学院の開設を行うこととなったため、認可要件に合致した設備整備が必要である</p>					
2 事業の内容					
<p>教育研究の高度化を図る大学院の令和6年度開設に向け、新棟の建設及び2号館耐震補強工事、1号館の改修等に係る施設整備を実施した。</p>					
3 決算額及び 交付金充当額 (単位：円)	費目	金額	概要		
	工事費	289,326,532	福知山公立大学2号館に係る工事費等		
	決算額計	289,326,532	交付金充当額	144,663,266	
4 事業の成果	公立大学法人福知山公立大学第2期中期目標に掲げた令和6年度の大学院開設に向けて、新棟建設工事、2号耐震補強工事、1号館改修工事等を実施した。				
5 課題	大学院設置認可後は、内部進学者や外部からの学生の確保にも努め、定員数を確保する必要がある。				
6 R5年度以降の 予定	認可後は、内部進学者や外部大学からの進学者を確保するために広報活動等を実施するほか、市内企業等への聞き取り等を行い、社会人のリスキリングにつながるよう検討を進める。				
成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	R2	R3	R4
	企業等との共同研究数	件	1/10	7/10	7/10
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	R2	R3	R4
	地域と大学の連携取組数 (包括協定締結数)	件	16/10	16/10	16/10
担当課による評価	B(相当程度効果があった)				
評価をつけた理由	施設整備を行ったことで要件を満たし、令和5年3月に大学院開設に係る認可申請提出に至った。				

R4企業版ふるさと納税 福知山市まち・ひと・しごと創生推進計画					
事業名	竜王戦福知山城対局事業				
担当課	市長公室 秘書広報課				
予算額	17,000千円				
1 事業の背景・目的					
将棋界最高位のタイトル戦「竜王戦」を通してまちのシンボルである福知山城などの地域資源と「まちづくりへの挑戦心＝光秀マインド」を全国発信し、大河ドラマ効果を持続させて関係人口・交流人口の拡大とシビックプライドの醸成を図り、地域活性化につなげていく。					
2 事業の内容					
市制施行85周年記念事業として、市内各所団体と実行委員会を組織、事業を実施。 ○令和4年11月8日(火)・9日(水)の2日間、福知山城で「第35期竜王戦」の第4局(藤井聡太竜王 対 挑戦者 広瀬章人八段)を共催(棋戦主催は、読売新聞社と日本将棋連盟) ○市民参加の関連企画を実施(こども将棋大会、前夜祭、大盤解説会、勝負めし・おやつ・ドリンク公募、オンライン将棋動画配信、福知山城フォトスポット開設 など)					
3 決算額及び 交付金充当額 (単位:円)	費目	金額	概要		
	負担金及び交付金	15,244,000	第35期竜王戦第4局福知山城対局 実行委員会への負担金		
	決算額計	15,244,000	交付金充当額	7,622,000	
4 事業の成果	○プレスリリース数(≒企画数)が、前回(H30)14件に対し、今回27件。市内団体の活躍やオンラインの活用で、約2倍の企画数となった。○対局中継の視聴者数は、前は土日で174万人に対し、今回は平日で402万人。2.3倍となり、福知山市/城の認知につながった。○「竜王戦勝負グルメ」として市内のごはん・スイーツ・ドリンクをブランド化。行列や完売、売上増につなげる。○事業費の98%は、特定財源。本交付金のほか、企業版とクラブファン型ふるさと納税、京都府交付金にて1599万7000円を獲得した。				
5 課題	福知山城のさらなる価値向上をはかり、入館者数などを高水準で保つ。 竜王戦レガシーを受け継ぎ、まちの文化振興につなげる。				
6 R5年度以降の 予定	○引き続き市民とともに福知山城を活用した企画を行うことで、メディアなどでの露出をある程度高く保つとともに、まちのシンボルとしての価値を高める。 ○竜王戦レガシーを生かした福知山市の将棋文化の発展を市民主導で担っていく、市はその活動が継続していくための支援を行う。				
成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	R2	R3	R4
	メディア記事掲載 広告換算額	円	-	-	9.4億/2億
	福知山城入館者数	人	109,187/50,000	39,134/60,000	59,711/50,000
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	R2	R3	R4
	プレスリリース配信	件	-	-	27/15
担当課による評価	A(非常に効果があった)				
評価をつけた理由	市の資産である福知山城を全面的に活用し、前回(H30)の実績をベースに、実行委員会形式によって企画を増やし、大きな成果を上げることができた。事業の成果としてあげた数字で表せる指標だけでなく市内の子ども将棋教室が満員、市内中高一貫校で強豪を目指す将棋部が新設されるなど、市民・民間による将棋文化を通じた地域活性化の機運醸成ができた。				